



Release

フランクフルト・アム・マイン

2024年10月23日

ドイツ銀行、2024年第3四半期において税引前利益23億ユーロを計上

約440百万ユーロのポストバンク関連の訴訟引当金の一部戻入れと、営業モメンタムに牽引され、2024年第3四半期の利益は増加

- 税引前利益は23億ユーロ、税引後利益は17億ユーロ
- 税引後RoTE¹は10.2%、費用収益比率は63%

ポストバンク関連の訴訟引当金の戻入れを除く営業業績は、前年同四半期から増加し、第3四半期として過去最高を記録

- 税引前利益は6%増加し、18億ユーロ、税引後利益は8%増加し、13億ユーロ
- 税引後RoTE¹は前年同四半期の7.3%から上昇して7.6%、費用収益比率は前年同四半期の72%から低下して69%

持続的な収益の伸び率および事業成長

- 純収益は、前年同四半期から5%増加し、75億ユーロ
- 手数料およびフィー収益は、前年同四半期から5%増加し、25億ユーロ
- 純資金流入は、プライベート・バンクおよびアセット・マネジメント全体で270億ユーロ

営業コスト管理を継続

- 調整済コストは、前年同四半期から2%増加して50億ユーロとなり、3四半期連続で2024年の四半期ガイダンスに沿った水準を達成
- 利息以外の費用は、前年同四半期から8%減少して47億ユーロ、ポストバンク訴訟引当金の戻入れを除く場合には前年同四半期と横ばいの52億ユーロ

普通株式等Tier1 (CET1) 資本比率は、13.8%に上昇

- 追加の自社株の買戻しの承認を申請中

信用損失引当金は、494百万ユーロ

- ベースラインとなる資産の質は安定的に推移
- 一時的な影響は、今後数四半期で緩和される見通し
- 商業用不動産引当金は、2024年第2四半期から34%減少

2024年年初からの9カ月間における堅調な業績

- 税引前利益は、前年同期から5%減少して47億ユーロ、ポストバンク買収訴訟引当金（以下「訴訟の影響」といいます。）を除く場合には13%増加して56億ユーロ
- 純収益は、2024年通年のガイダンスに沿って、3%増加して229億ユーロ
- 調整済コストは、2024年のコストガイダンスに沿って、1%減少して151億ユーロ
- 利息以外の費用は、3%増加して168億ユーロ、ポストバンク訴訟の影響を除く場合には2%減少して158億ユーロ
- 税引後RoTE¹は、前年同期の税引後RoTE¹7.0%と比較して6.0%、ポストバンク訴訟の影響を除く場合には7.8%
- 費用収益比率は、前年同期の費用収益比率73%と比較して73%、ポストバンク訴訟の影響を除く場合には69%

チーフ・エグゼクティブ・オフィサーのクリスティアン・ゼーヴィングは、「この3カ月間で旧来の訴訟案件の解決に向けた重要な進展を遂げるとともに、業績において過去最高の第3四半期利益を達成しました。」とコメントしました。「これは、ドイツ銀行の強固な事業基盤、ビジネス全体にわたる好調な成長へのモメンタム、継続的なコスト管理を反映しています。当行はグローバル・ハウスバンクとして今日の不確実な環境下で顧客をサポートするための理想的な基盤を築き上げ、これにより、当行が今後も収益性の高い成長への道を歩み続け、当初の目標を上回る株主配当を実現できると確信しています。また当行は現在、追加の自社株の買戻しの承認も求めています。」

ドイツ銀行（銘柄コード XETRA:DBGn. DB/NYSE:DB）は、本日、2024年第3四半期における23億ユーロの税引前利益の計上を発表しました。これは、前年同四半期から31%の増加となりますが、当行のポストバンク AG の買収に関連する和解の進展による約440百万ユーロの訴訟引当金の一部戻入れを含みます。ポストバンク訴訟引当金の戻入れを除く税引前利益は、18億ユーロとなり、2023年第3四半期における17億ユーロの税引前利益から6%増加、第3四半期としては過去最高となりました。税引後利益は、前年同四半期から39%増加して17億ユーロですが、ポストバンク訴訟引当金の戻入れを除く場合の税引後利益は、13億ユーロで前年同四半期の12億ユーロと比較して8%増加となりました。

2024年第3四半期の税引後平均有形株主資本利益率（RoTE）¹は10.2%ですが、ポストバンク訴訟引当金の戻入れを調整した場合には7.6%となり、前年同四半期のRoTE¹7.3%と比較して上昇しました。税引後平均株主資本利益率（RoE）¹は、前年同四半期の6.5%に対し、9.1%となりました。費用収益比率は63%ですが、ポストバンク訴訟引当金の戻入れを調整した場合には69%となり、前年同四半期の費用収益比率72%から減少しました。

2024年年初からの9カ月間の税引前利益は、前年同期から5%減少して47億ユーロですが、2024年年初からの9カ月間のポストバンク訴訟の影響約900百万ユーロを除く場合には、前年同期から13%増加して56億ユーロとなりました。税引後利益は、前年同期の税引後利益が35億ユーロであったのに対し、8%減少して32億ユーロ、ポストバンク訴訟の影響を除く場合には、14%増加して39億ユーロとなりました。税引後RoTE¹は6.0%ですが、ポストバンク訴訟の影響を除く場合には7.8%となり、前年同期の7.0%を上回りました。税引後RoE¹は、前年同期の6.3%に対し、5.4%となりました。費用収益比率は73%ですが、ポストバンク訴訟の影響を除く場合には69%となり、前年同期の73%から改善しました。

チーフ・ファイナンシャル・オフィサーのジェームス・フォン・モルトケは、「2024年年初からの9カ月間の業績は、ドイツ銀行の経営力を明白に示しています。」とコメントしました。「当行は一貫して、収益の成長とコスト管理の両面で計画どおりにガイダンスを達成してまいりました。当行の資本およびバランスシートは強固であり、貸出金残高全体の質は引き続き堅調です。このことは、将来に向けて、当行が2024年の収益ガイダンスである300億ユーロを達成する上で自信となりました。また、継続的な収益モメンタム、コスト効率、資本の強化および信用損失引当金の縮小により、当行が2025年の目標の達成へ向けて、着実に前進していると考えています。」

グローバル・ハウスバンク戦略の継続的な実行

ドイツ銀行は、2024年第3四半期において、加速したグローバル・ハウスバンク戦略をすべての側面で進展させました。

- **収益の伸び率:** 2024年第3四半期の収益は、前年同四半期から5%増加の75億ユーロとなり、手数料およびフィー収益が5%の伸びとなった他、主要な銀行業務セグメント²における純利息収益も、前年同四半期と比較してほぼ同水準でした。2021年通年と比較した過去12カ月間の当行の複合年平均収益の伸び率は、2024年第3四半期末現在で5.6%となり、5.5%から6.5%の間へと引き上げた当行の目標範囲内となりました。
- **業務効率:** 当行は、ドイツのプラットフォームの最適化および特に顧客対応外の業務の従業員削減を含む、25億ユーロの業務効率化プログラムをさらに進展させました。2024年第3四半期においてはこれまでの施策の完了により実現した、または見込まれる費用削減の総額は、す

で実現した費用削減 15 億ユーロを含め 17 億ユーロに達しました。従業員削減の累積合計は、2024 年末までの計画全体の 90%を超える約 3,300 名の従業員（常勤相当）となりました。そのうち 600 名は 2024 年第 3 四半期に削減され、さらに、2024 年年初からの 9 カ月間において、外部契約スタッフは、主に内部雇用に置き換えるかたちで約 1,400 名が削減されました。

- **資本効率**：ドイツ銀行は、2024 年第 3 四半期において、データおよびプロセスの改善により、RWA 相当額でさらに 30 億ユーロの利益を計上しました。その結果、資本効率化施策による RWA の累積削減額は 220 億ユーロに達し、2025 年末までに 250 億ユーロから 300 億ユーロの範囲へと引き上げた当行の目標に向けて、さらなる進展を示しました。ドイツ銀行は、この目標を上回るため、さらなる機会を追求し続けます。

収益：2024 年のガイダンスに向けて順調に推移

2024 年第 3 四半期の**純収益**は、2023 年第 3 四半期から 5%増加して 75 億ユーロでした。手数料およびフィー収益は、フィーおよび手数料ベースの事業の堅調な業績を反映して、前年同四半期から 5%増加して 25 億ユーロとなり、主要な銀行業務セグメント²の純利息収益は、金利の正常化が予想どおり進む中でほぼ同水準でした。**2024 年年初からの 9 カ月間**の収益は、3%増加して 229 億ユーロとなりました。これは手数料およびフィー収益が 9%増加して 77 億ユーロとなったため、当行の 2024 年通年のガイダンスである約 300 億ユーロに向けた期待どおりの進捗を遂げています。

当行の中核ビジネスの収益の推移は、以下のとおりです。

- **コーポレート・バンクの純収益**は、2023 年第 3 四半期から 3%減少して 18 億ユーロでした。純利息収益は、預金マージンの正常化を反映して、前年同四半期からわずかに減少して 12 億ユーロでしたが、預金高の伸びおよび貸出金純利息収益の増加により大半が相殺されました。手数料およびフィー収益は、機関投資家向けサービス事業の成長により、4%増加して 611 百万ユーロとなりました。コーポレート・トレジャリー・サービスの収益は、前年同四半期から 3%減少して 10 億ユーロでしたが、機関投資家向けサービスの収益は、3%増加して 485 百万ユーロとなりました。ビジネス・バンキングの収益は、前年同四半期の堅調な水準と比較して純利息収益が減少したことを反映して、前年同四半期から 9%減少して 328 百万ユーロとなりました。**2024 年年初からの 9 カ月間**の純収益は、3%減少して 56 億ユーロとなりました。コーポレート・トレジャリー・サービスの収益は 5%減少して 32 億ユーロとなりましたが、機関投資家向けサービスの収益は 5%増加して 15 億ユーロ、またビジネス・バンキングの収益は 5%減少して 10 億ユーロとなりました。
- **インベストメント・バンクの純収益**は、債券および為替（FIC）ならびにオリジネーションおよびアドバイザーの双方の成長により、2023 年第 3 四半期から 11%増加して 25 億ユーロでした。FIC の収益は、好調な不良債権業務およびこれまでの期間の投資を反映したフロー・ビジネスの継続的な成長により、クレジット・トレーディングの収益が大幅に増加したため、11%増加して 21 億ユーロとなりました。エマージング・マーケットの収益も、全地域で伸びたことを反映し、大幅に増加しました。スポット取引業務の継続的な伸びに支えられて外国為替収益が増加した一方、金利の収益は、引き続き不透明な市場環境において前年同四半期から減少しました。資金調達業務における収益は、前年同四半期からほぼ同水準となりました。ドイツ銀行は、年初から当四半期末までドイツにおいて第 1 位を維持しており、オリジネーションおよびアドバイザーの収益は、全ビジネスラインの成長により、前年同四半期から 24%増加して 401 百万ユーロでした。債券オリジネーションの収益は、業界の手数料プールの拡大を反映して 20%増加し、アドバイザーの収益は、先行投資の恩恵を受けた事業による市場シェアの拡大（出所：ディールロジック）を反映して、前年同四半期から 32%増加しました。**2024 年年初からの 9 カ月間**のインベストメント・バンクの収益は、主にオリジネーションおよびアドバイザーの収益が 58%増加して 15 億ユーロとなったことによって、12%増加して 82 億ユーロとなりました。世界的に拡大するオリジネーションおよびアドバイザーの手数料プールにおけるドイツ銀行のシェアは、2023 年通年と比較して約 50 ベーシスポイント上昇しました（出所：ディールロジック）。FIC の収益は、クレジット・トレーディングの増

加に牽引された資金調達業務を除く FIC の成長により、5%増加して 67 億ユーロとなった一方、資金調達業務における収益も 5%増加して 24 億ユーロとなりました。ユーロマネーの「2024 年 FX アワード」において、ドイツ銀行は西ヨーロッパおよびアジア太平洋の両方について「ベスト・FX バンク」に選出されました。

- **プライベート・バンクの純収益**は、前年同四半期からほぼ横ばいの 23 億ユーロでした。金利が安定している環境下において、純利息収益は 6%減少しましたが、これは、利息以外の収益の拡大を目指すプライベート・バンクの戦略を反映した投資商品の成長によって一部相殺されました。パーソナル・バンキングの収益は、前年同四半期から 5%減少しました。これは、欧州中央銀行（ECB）による最低準備金報酬の廃止が一因となったヘッジ費用および資金調達コストの増加ならびに貸出金収益の減少を反映したものであり、マイナスの非経常的な影響を一部反映しています。これらの影響は、預金収益の増加により一部相殺されました。ウェルス・マネジメントおよびプライベート・バンキングの収益は、貸出および投資商品の両方における 2 桁の増加が預金収益の減少を上回ったため、前年同四半期から 5%増加しました。運用資産は、さらに 130 億ユーロ増加しましたが、これには 80 億ユーロの純資金流入が含まれ、その内訳は預金が 50 億ユーロおよび投資商品が 30 億ユーロでした。**2024 年年初からの 9 カ月間**のプライベート・バンクの純収益は、前年同期から 2%減少して 70 億ユーロでした。パーソナル・バンキングの収益は、前年同期から 6%減少して 39 億ユーロとなりましたが、ウェルス・マネジメントおよびプライベート・バンキングの収益が 3%増加して 31 億ユーロとなったことにより一部相殺されました。運用資産は 6,250 億ユーロに増加して過去最高水準となり、2024 年年初からの 9 カ月間において 470 億ユーロ増加しましたが、これは 2023 年年初からの 9 カ月間における 170 億ユーロから増加した 270 億ユーロの純資金流入が一因となりました。
- 2024 年第 3 四半期の**アセット・マネジメントの純収益**は、2023 年第 3 四半期から 11%増加し、660 百万ユーロとなりました。マネジメント・フィーは、6%増加して 626 百万ユーロとなりましたが、これはアクティブ商品およびパッシブ商品の両方によるもので、パッシブ商品への継続的な資金流入も一部反映しています。運用報酬および取引手数料は、オルタナティブ運用業務における報酬の減少により、前年同四半期の 19 百万ユーロから減少して 12 百万ユーロとなりました。2024 年第 3 四半期末現在の運用資産は、2024 年第 2 四半期末現在は 9,330 億ユーロであったのに対し、過去最高の 9,630 億ユーロとなりました。これは、主にパッシブ商品および債券商品への純資金流入が 180 億ユーロと、四半期ベースで過去 2 番目に高い水準となったことならびに市場水準の上昇によるプラスの影響によるものでした。**2024 年年初からの 9 カ月間**の純収益は、マネジメント・フィーが 5%増加して 18 億ユーロとなり、運用報酬および取引手数料の前年同期の 87 百万ユーロから 40 百万ユーロへの減少を上回ったことにより、前年同期から 8%増加して 19 億ユーロとなりました。運用資産は 9,630 億ユーロであり、2023 年第 3 四半期末現在から 1,030 億ユーロ増加しました。

費用：調整済コストは、2024 年の四半期コストガイダンスに沿った水準を維持

2024 年第 3 四半期の**利息以外の費用**は、2023 年第 3 四半期の 52 億ユーロから 8%減少し、47 億ユーロとなりました。かかる減少は主に、前述のポストバンク訴訟引当金の戻入れ約 440 百万ユーロを反映したものです。営業関連以外のコスト合計¹は、302 百万ユーロのマイナスとなりました。ポストバンク訴訟引当金の戻入れは、2024 年第 3 四半期のその他の事項に関連する訴訟引当金 88 百万ユーロならびに再編および退職費用 42 百万ユーロによって一部相殺されました。ポストバンク訴訟引当金の戻入れを除く利息以外の費用は、前年同四半期からほぼ横ばいの 52 億ユーロでした。

2024 年第 3 四半期の**調整済コスト**は、50 億ユーロで、2024 年の四半期調整済コストガイダンスに 3 四半期連続で沿った水準で、2023 年第 3 四半期から 2%増加となりました。報酬関連費用は、賃金の増加、雇用を含む戦略的成長に関する取組み、スミスの買収および変動報酬の発生額の増加により、予想どおり増加しましたが、当行のテクノロジー・プラットフォームの合理化に伴う費用の削減、および専門的サービス費用の削減により、一部相殺されました。

2024年第3四半期末現在、内部の**従業員（常勤相当）**は、2024年第3四半期中に766名増加し、90,236名となりました。かかる増加は、2024年第3四半期中に当行に入行した1,000名を超える新卒者の雇用、その他の戦略的雇用および外部スタッフの継続的な内部雇用を反映したものです。これらの影響は、2024年第3四半期における離職者（業務効率化施策による離職者を含みます。）を上回りました。

2024年年初からの9カ月間の利息以外の費用は、前年同期から3%増加して168億ユーロとなりました。ポストバンク訴訟の影響を除く利息以外の費用は、前年同期の利息以外の費用から2%減少し、158億ユーロとなりました。調整済コストは、1%減少して151億ユーロとなり、2024年通年の調整済コストを四半期当たり50億ユーロとする、当行の調整済コストガイダンスに沿う水準となりました。

信用損失引当金：健全な基礎資産の質

2024年第3四半期の**信用損失引当金**は、494百万ユーロで、前年同四半期の245百万ユーロおよび2024年第2四半期の476百万ユーロからわずかに増加しました。正常債権（ステージ1およびステージ2）に対する引当金は、2024年第2四半期の35百万ユーロから減少し、12百万ユーロとなりました。これは、マクロ経済が軟調となる予測およびオーバーレイの再調整を反映したもので、2024年第2四半期以降のポートフォリオの変更により一部相殺されました。不良債権（ステージ3）に対する引当金は、2024年第2四半期の441百万ユーロから増加し、482百万ユーロとなりました。2024年第2四半期からの増加は、主にプライベート・バンクに起因し、今後数四半期で正常化すると予想されるポストバンク統合の残存影響を含んでいる一方、ポートフォリオ全体の質は、概ね安定しています。商業用不動産に関する引当金は2024年第2四半期と比較して34%減少し、2024年第4四半期に見込まれる売却に関する引当金が含まれています。

2024年年初からの9カ月間の信用損失引当金は、14億ユーロで、前年同期の10億ユーロから増加しました。この増加は、大規模な法人案件によるものですが、これらの案件にはヘッジによる一部の相殺効果が含まれています。また、ポストバンク統合の残存影響が今後大幅に減少する見通しであることや、2023年年初からの9カ月間と比較して商業用不動産の引当金が増加したことも影響しています。当行は、商業用不動産の安定化の兆しを見出しており、これは、今後の四半期における引当金のさらなる削減を後押しすると予想しています。

健全な自己資本、流動性および資金調達指標

2024年第3四半期の**普通株式等 Tier1 (CET1) 資本比率**は、2024年第2四半期から13.5%上昇し、13.8%となりました。この上昇は、2024年第3四半期の収益が好調であったこと、および一部の負債性金融商品の未実現損益に関する当行の経過措置が適用されたことを反映したものです。これらのプラスの影響は、グローバル・ハウスバンク戦略の加速化の一環である前述の資本効率化施策による削減額を差し引いたリスク・ウェイトド・アセット（RWA）（主に市場リスクおよび信用リスクRWA）の増加を上回りました。ドイツ銀行は最近、追加の自社株の買戻しの承認をECBに申請しました。

2024年第3四半期の**レバレッジ比率**は4.6%となり、2024年第2四半期と同水準となりました。2024年第3四半期の資本の変動によるプラスの影響は、2024年第3四半期におけるトレーディング資産によるレバレッジ・エクスポージャーの増加の影響により相殺されました。

2024年第3四半期末現在の**流動性カバレッジ比率**は、2024年第2四半期末と比較して同水準の135%で、安定しています。これは規制要件である100%を上回り、余剰額は600億ユーロでした。**安定調達比率**は、122%となり、当行のガイダンス範囲である115%から120%の範囲を上回り、要件に対する余剰額は1,120億ユーロとなりました。預金は、2024年第3四半期において90億ユーロ増加し、6,500億ユーロとなりました。

サステナブル・ファイナンス：2020年以降の累積取引高は3,520億ユーロに到達

2024年第3四半期の**サステナブル・ファイナンスおよびESG投資の取引高（DWSを除きます。）**³は300億ユーロとなり、2020年1月1日以降の累積取引高は3,520億ユーロとなりました。2024年第3四半

期の取引高には、ESG 基準をドイツ銀行のドイツ年金制度に統合したことによる 100 億ユーロの一次的拋出が含まれており、これは「コーポレートおよびその他 (C&O)」に計上されています。2024 年第 3 四半期におけるドイツ銀行の各事業部門の取引高は、以下のとおりでした。

- **コーポレート・バンク**：サステナブル・ファイナンスの取引高は 20 億ユーロとなり、2020 年 1 月 1 日以降の当事業部門の累積取引高を 650 億ユーロに引き上げました。
- **インベストメント・バンク**：サステナブル・ファイナンスの取引高 40 億ユーロおよびサステナブル関連資本市場発行高 110 億ユーロにより 150 億ユーロとなり、2020 年 1 月 1 日以降の当事業部門の累積取引高を 2,110 億ユーロに引き上げました。
- **プライベート・バンク**：ESG 運用資産および新規貸出しにおける 30 億ユーロの増加により、2020 年 1 月 1 日以降のプライベート・バンクの累積取引高を 660 億ユーロに引き上げました。

2024 年第 3 四半期における主な取引は、以下のとおりです。

- ユニパーSE 向けの CO2 削減目標および再生可能エネルギーの拡大を含む、サステナビリティに連動した 30 億ユーロのリボルビング・クレジット・ファシリティへ参加しました。
- セネガル共和国（経済・計画・協力省を代表）向けに、227 百万ユーロの資金調達パッケージを提供しました。当行は、貸手、ファシリティ・エージェントおよび単独主幹事を務めました。かかるプロジェクトでは、100,000 基の太陽光発電式街灯の供給、設置およびメンテナンスが行われ、4,000 キロメートルをカバーし、年間 22,500 トンの CO2 排出量を削減します。
- 北米のクリーンエネルギー分野をリードするスウィフト・カレント・エナジーの主幹事として、300 百万ドルのシニア担保付リボルビング・クレジット・ファシリティを取りまとめました。かかるファシリティは、風力、太陽光およびエネルギー貯蔵プロジェクトのパイプラインのための柔軟性のある成長資金をスウィフト・カレント・エナジーに提供します。
- ミュンヘン市初の 300 百万ユーロの 7 年物グリーンボンドについて、共同 ESG コーディネーターとしての役割を果たしました。また、ドイツの都市がグリーンボンドを発行するのも初めてのことでした。取得資金は、ミュンヘン市のグリーンボンド・フレームワークにおける適格グリーン・プロジェクトに充てられます。
- ドイツ復興金融公庫 (KfW) の 30 億ユーロの 5 年物グリーンボンドについて、共同主幹事の役割を果たしました。KfW は、モーニングスター・サステナビリティクスによるセカンド・オピニオンを取得した「KfW によるグリーンボンド」のフレームワークに従い、当該ボンドの取得資金と同額を新規の適格グリーン・プロジェクトの資金調達に充当します。

ESG 格付の改善：2024 年第 3 四半期において、ドイツ銀行の MSCI ESG 格付は A から AA に引き上げられました。さらに、10 月には、当行の S&P グローバル・サステナブル 1 格付が 100 点満点中 54 点から 12 点引き上げられ、66 点となりました。これにより、ドイツ銀行は現在、「多角的な金融サービスおよび資本市場」カテゴリーで上位 10%に位置付けられています。2024 年年初から当四半期末まで、ドイツ銀行のサステナビリティへの取組みについて、以下の五つの改善が主要な独立機関から認められています。

- **S&P グローバル・サステナブル 1**：ドイツ銀行のコーポレート・サステナビリティ評価 (CSA) のスコアが 100 点満点中 54 点から 66 点に改善されました。
- **MSCI**：当行の格付は、9 月に A (7.1) から AA (8.5) に引き上げられ、これによりドイツ銀行はサブインダストリー・カテゴリー（投資銀行業務およびブローカー業務）の上位 20%に位置付けられました。

- **サステナリティクス**：当行のスコアは、8月に27.9から22.9に改善し、ドイツ銀行は「中程度のリスク」グループの下限に位置付けられました。
- **GDP**（旧カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）：ドイツ銀行は、2月に12のサブカテゴリーのうち七つで評価を上げ、八つのカテゴリーで「A」評価を獲得し、B/マネジメント評価を維持しました。
- **ISS ESG**：ドイツ銀行は、1月にC/プライムからC+/プライムに引き上げられました。

グループ業績概要

特記表示がない限り 単位:百万ユーロ	2024年 9月30日に 終了した 3カ月間	2023年 9月30日に 終了した 3カ月間	変動額	増減 (%)	2024年 9月30日に 終了した 9カ月間	2023年 9月30日に 終了した 9カ月間	変動額	増減 (%)
純収益合計:	7,501	7,132	369	5	22,869	22,221	648	3
内:								
コーポレート・バンク(CB)	1,841	1,890	(48)	(3)	5,642	5,807	(165)	(3)
インベストメント・バンク(IB)	2,523	2,271	252	11	8,168	7,323	845	12
プライベート・バンク(PB)	2,319	2,341	(22)	(1)	7,027	7,177	(150)	(2)
アセット・マネジメント(AM)	660	594	66	11	1,940	1,803	137	8
コーポレートおよびその他(C&O)	157	35	122	N/M	92	112	(19)	(17)
信用損失引当金	494	245	249	102	1,410	1,017	392	39
利息以外の費用	4,744	5,164	(420)	(8)	16,751	16,223	527	3
税引前利益(損失)	2,262	1,723	540	31	4,709	4,980	(272)	(5)
利益(損失)	1,665	1,201	464	39	3,168	3,462	(294)	(8)
ドイツ銀行株主に帰属する利益(損失)	1,461	1,031	430	42	2,593	2,951	(359)	(12)
普通株式等 Tier1 資本比率 ¹	13.8%	13.9%	(0.1)ppt	N/M	13.8%	13.9%	(0.1)ppt	N/M
レバレッジ比率 ¹	4.6%	4.7%	(0.1)ppt	N/M	4.6%	4.7%	(0.1)ppt	N/M

N/M: 意味のある比較不能

過去年のセグメント情報は、現在のセグメント区分に合わせて表示されています。

1 期末現在

1 本項目およびその他のGAAP以外の財務的測定尺度の詳細については、2024年第3四半期補足財務データ(英文)の15頁から21頁の「GAAP以外の財務的測定尺度」および2024年9月30日に終了した期間に関する収益報告書(英文)の56頁から62頁の「GAAP以外の財務的測定尺度」をそれぞれご参照ください。

2 銀行業務取引による純利息収益が収益全体の重要な部分を占めている事業セグメント

3 累積ESG取引高には、コーポレート・バンク、インベストメント・バンク、プライベート・バンクならびにコーポレートおよびその他における、2020年1月1日から当四半期末までのサステナブル・ファイナンス(フロー)および投資(ストック)が含まれています。対象となる商品には、資本市場における発行(ブックランナーを務めた分のみ)、サステナブル・ファイナンス、当四半期末現在の運用資産および当四半期末現在の年金制度資産(総資産)が含まれます。累積取引高および目標には、DWSにより別個に報告される、DWSのESG運用資産は含まれません。

ESG分類

当行は、サステナブル関連ファイナンスおよび投資の取引を「Sustainable Finance Framework - Deutsche Bank Group (サステナブル・ファイナンスのフレームワークドイツ銀行グループ)」(英文)(<https://investor-relations.db.com>から入手可能です。)において定義しました。当行の目標における累積の定義に鑑みて、フレームワークに照らした検証が報告する四半期末までに完了できない場合には、取引高は翌四半期以降において検証が完了次第報告されます。アセット・マネジメントにおけるDWSのESG商品分類の詳細については、DWSの2023年の年次報告書(英文)の「Our Responsibility - Sustainable Action - Our Product Suite (当社の責任 - 持続可能な行動 - 当社の商品)」をご参照ください。

ドイツ銀行の事業の2024年第3四半期の業績の詳細は、2024年9月30日に終了した期間に関する収益報告書(英文)により入手可能です。

ドイツ銀行について

ドイツ銀行は、個人顧客、中小企業、事業法人、各国政府および機関投資家に対し、リテール・バンキング、プライベート・バンキング、コーポレート・バンキング、トランザクション・バンキング、融資、資産運用の商品およびサービスならびに焦点を絞った投資銀行業務を提供しています。ドイツ銀行は、欧州に深く根ざしつつグローバル・ネットワークを有するドイツ有数の銀行です。

将来の事象に関する記述

本リリースには、将来の事象に関する記述が含まれています。将来の事象に関する記述とは、歴史的事実ではない記述であり、当行の考えおよび予想ならびにその基礎となる前提が含まれます。これらの記述は、ドイツ銀行の経営陣が現在入手可能な予定、推定および計画に基づいています。したがって、将来の事象に関する記述は、あくまで当該記述がなされた日現在ののものであって、ドイツ銀行はこれらの記述に関して、新しい情報または将来生じた事象があっても、これを更新して公表する責任は負いません。

将来の事象に関する記述は、その性質上リスクおよび不確実性を含みます。したがって、いくつかの重要な要因が作用して、実際には将来の事象に関する記述に含まれるものとは大きく異なる結果となる可能性があります。

これらの要因には、ドイツ、ヨーロッパ、米国および当行が収益の相当部分を上げ、資産の相当部分を有するその他の地域における金融市場の動向、資産価値の推移および市場のボラティリティ、借り手または取引相手による将来の債務不履行、当行の経営戦略の実施、当行のリスク・マネジメントの方針、手続および方法への信頼性ならびに米国証券取引委員会（SEC）への情報開示に関連するリスク等が含まれます。このような要因については、SECに提出した当行の2024年3月14日付 Form 20-F の「リスク・ファクター」の表題のもとで詳しく記載されています。当該文書の写しは、請求により入手可能であり、また www.db.com/ir からダウンロードすることができます。

会計の基準

上記の当行の業績は、国際会計基準審議会（IASB）により発行され、欧州連合（EU）が支持している国際財務報告基準（IFRS）に準拠して作成されています。これには、2020年以降、満期到来前の預金に対するポートフォリオ公正価値ヘッジ会計および期限前弁済条項付固定金利モーゲージの適用（以下「EUカーブアウト」といいます。）が含まれます。EUカーブアウトに基づく公正価値ヘッジ会計は、各テナーのプールにおける金利のプラス・マイナス両方の動きに対する会計エクスポージャーを最小限に抑えることで、トレジャリーの活動により報告される収益のボラティリティを削減するために用いられます。

2024年9月30日に終了した3カ月間について、EUカーブアウトの適用は、当行の税引前利益に20億ユーロ、利益に14億ユーロのマイナスの影響をもたらしました。2023年9月30日に終了した3カ月間について、EUカーブアウトの適用は、当行の税引前利益に649百万ユーロ、利益に460百万ユーロのマイナスの影響をもたらしました。2024年9月30日に終了した9カ月間について、EUカーブアウトの適用は、当行の税引前利益に13億ユーロ、利益に915百万ユーロのマイナスの影響をもたらしました。2023年9月30日に終了した9カ月間について、EUカーブアウトの適用は、当行の税引前利益に400百万ユーロ、利益に283百万ユーロのマイナスの影響をもたらしました。当行グループの規制自己資本およびその比率についても、EUカーブアウトを伴うIAS第39号を用いて報告しています。2023年9月30日現在について、EUカーブアウトの適用は、CET1資本比率に約2ベースポイントのマイナスの影響をもたらしたのに対し、2024年9月30日現在については、約68ベースポイントのマイナスの影響をもたらしました。いずれの期においても、EUカーブアウトの正味の影響は、ヘッジ対象のポジションの時価評価の変動およびヘッジ手段によって、プラスにもマイナスにもなる可能性があります。

GAAP 以外の財務的測定尺度の使用について

本リリース、および当行が発行しているまたは発行する可能性があるその他の書面には、GAAP 以外の財務的測定尺度が含まれています。GAAP 以外の財務的測定尺度とは、当行の過去もしくは将来の経営成績、財政状態またはキャッシュ・フローの尺度で、ドイツ銀行の財務諸表において IFRS に従って計算および表示された最も直接的に比較可能な尺度から、場合により、これに含まれている（または除外されている）金額を除外する（または含める）調整を行うものです。当行の GAAP 以外の財務的測定尺度およびこれと最も直接的に比較可能な IFRS の財務的測定尺度の例は、以下をご参照ください。

GAAP以外の財務的測定尺度

最も直接的に比較可能なIFRSの財務的測定尺度

ポストバンク買収訴訟引当金を除く税引前利益（損失）	税引前利益（損失）
各部門におけるドイツ銀行株主に帰属する利益（損失）、各部門におけるドイツ銀行株主およびその他の資本構成要素に帰属する利益（損失）、ポストバンク買収訴訟引当金を除く利益（損失）	利益（損失）
主要な銀行業務セグメントの純利息収益	純利息収益
特定項目を除く収益、通貨換算の影響を調整したベースでの収益	純収益
調整済コスト、通貨換算の影響を調整したベースでのコスト、営業関連以外のコスト、ポストバンク買収訴訟引当金を除く利息以外の費用	利息以外の費用
ポストバンク買収訴訟引当金を除く費用収益比率	費用収益比率
純資産（調整済）	資産合計
有形株主資本、平均有形株主資本、有形帳簿価額、平均有形帳簿価額	株主資本合計（帳簿価額）
税引後平均株主資本利益率（AT1証券のクーポン控除後のドイツ銀行株主に帰属する利益（損失）に基づく）、税引後平均有形株主資本利益率（AT1証券のクーポン控除後のドイツ銀行株主に帰属する利益（損失）に基づく）、ポストバンク買収訴訟引当金を除く税引後平均株主資本利益率、ポストバンク買収訴訟引当金を除く税引後平均有形株主資本利益率	税引後平均株主資本利益率
基本的流通株式1株当たり資産、基本的流通株式1株当たり有形純資産	流通株式1株当たり資産

特定項目を除く収益は、一般的に事業の通常の性質または範囲外にあり、部門別業績の正確な評価を歪曲させてしまう可能性のある特定収益項目を指し、IFRS に基づく純収益を調整して計算されます。除外項目は、債券の評価調整額（DVA）および本質的に1回限りの項目または損益の影響が特定の期間に限定される関連取引もしくは事象のポートフォリオに属する重要な取引もしくは事象です。

通貨換算の影響を調整したベースでの収益およびコストは、ユーロ以外の通貨建てで発生または被った過去の会計期間の収益およびコストを、当該会計期間における外国為替レートによりユーロに換算することで計算します。これらの調整済の数値およびそれに基づく過去の会計期間との比較によるパーセンテージの変化は、基礎となる取引高の状況についての情報を提供することを意図しています。

調整済コストは、IFRS に基づく利息以外の費用から、(i)のれんその他の無形資産の減損、(ii)正味の訴訟費用ならびに(iii)再編および退職費用（併せて**営業関連以外のコスト**と総称します。）を控除して計算されます。